

優 秀 賞

「建設業の魅力」

愛知県立豊橋工業高等学校 建築科 3年
野 沢 歩 夢

僕からみた建設業の魅力は四つあります。

一つ目は、「多くの人々の支えになる」ということです。建設業は住宅などの建物だけでなく、道路などの交通網や上下水道などの僕達の生活にはなくてはならない物を多く造り出しています。人が生きていく中で大事な三要素として「衣・食・住」があります。その中の「住」の部分を建設業が支えているので、人々の生活や社会の中でとても重要な役割を担っています。そんな縁の下の力持ちのような立場に立てることは建設業の素晴らしい魅力だと思います。

二つ目は、「出来上がるまでのワクワク感」です。これは、僕の個人的な考えになるかもしれませんが、僕は小さい頃から施工途中の柱や梁だけの住宅を見るととてもワクワクしました。まだ何もない土地の状態から基礎を作り、柱を立て、だんだんと骨組が出来上がっていくのを見てるとかっこいいなと思ったり、すごいなと思ったりしました。小さい頃からこういった感情をずっと持ち続けているので、僕は建設業に関わる仕事を目指そうと思ったのです。建設業ではこのワクワク感を直接感じることができると思います。それは建設業の素晴らしい魅力だと思います。

三つ目は、「たくさんの人と協力して成し遂げていく喜び」です。日々の中で造られている建物や橋や道路は絶対に一人の力でできているわけはありません。例えば、一つの戸建て住宅でも、それを依頼する建築主、その住宅を設計する設計者、実際に建築物を組み立てていく大工さん、空調や電気などの建物設備の設計と監理をする建築設備士、このほかにも多くの人々が住宅を建てるのに関わっています。そのため「他社との協力」や「チームワーク」というものが非常に重要なものになります。それは大変な一面もありますが、他の人たちと協力して一つの大きな物事を成し遂げていく喜びを味わうことに、やりがいや感動を強く感じることができると思います。そういったものはほかの業界でも感じることができるかもしれませんが、建設業界では実際に目の前で物が出来

上がっていくのを見ることができるので、感じる強さはほかの業界と比べると大きいと思いますし、素晴らしい魅力の一つだと思います。

四つ目は、「後世に残る物を生み出すことができる」ことです。一度造られた建築物や橋、高速道路などは数十年、長いものだと数百年もつものもあります。さらにそういった構造物は地図に記録されます。自分が携わった構造物が地図に記録され、後世にまで残っていくことを想像しただけでもワクワクする人は多くいると思います。それはまさしく「ものづくり」の醍醐味を強く味わえると思います。これは僕が前に、ある建設会社の社員の方から聞いた話です。その方は自分が関わった建築物の近くを通るたびに「この建物の一部を僕が関わったんだな」と思うそうです。そして、近い将来その方の息子さんが話せる歳になったら「この建物の一部にお父さんが携わっていたんだよ。」と自慢することが今の夢らしいです。そうやって世代を超えて残っていくものを造ることも建設業の素晴らしい魅力の一つだと思います。

現在、建設業には「きつい」「汚い」「危険」と言う、いわゆる「3K」と呼ばれるイメージが定着しているそうです。たしかに高いところで作業をしたり、真夏の中で汗だくになりながら重い材料を運んだり、マイナスのイメージを持ちやすいかも知れませんが、では、なぜ実際に建設業で働いている人々は、そのようなイメージを持たれてしまう仕事を続けていられるのでしょうか。それは「3K」というマイナスイメージをうまわる何か、建設業にはあるからだと思います。建設業を通して、多くの人々の支えになり、出来上がるまでのワクワク感を味わい、たくさんの人と協力して成し遂げていく喜びを感じ、後世に残る物を生み出すことができることはマイナスのイメージを吹き飛ばすほどの魅力ややりがいだと思います。いずれ、「3K」というイメージも薄れて、「かっこいい」や「すごい」というイメージが強くなり、多くの人々に建設業の魅力が広がればいいなと思います。